



吉原美智恵議員

町民と対話や交流の場を

出前座談会の周知を図る

問 新大山町としての山口町政も3年目となった。

「町民が主役のまちづくり」を目指し、「町長への手紙」、「意見箱」等は周知のとおりである。しかし、より一層の推進を図るためには、町長自らが、町民等のグループや、



出前講座

名和の町長
平成11年、

答

(山口町長)
平成11年、
名和の町長

団体の活動現場へ出向き、直接まちづくりについての意見を聞いたたり、タウンミーティングのようなものを開き、町政への参画意識を高めることも必要ではないか。また、町財政も厳しくなり、補助金削減等、町民の理解と

信頼を得ることがより求められる。協働のまちづくりのうえでも、いろいろな人の智恵を借りて行政に生かす対話の場を増やしてはどうか。

問 昨今の厳しい財政状況を踏まえ、これまで以上に町の各種事業についてその必要性や、効率性、成果等の検証が重要になって来ている。内部の検証もさることながら、その情報を町民にも公開し、

答 (山口町長)
昨年3月に12名の有識者を行政改革審議会委員に委嘱し、集中改革プランの策定にかかる諮問を行った。本年5月には、全職員を対象に、各課の現状、課題、目標等提出させ、幹部との意見交換を

に就任して以来、「町長の出前座談会」を開催してきている。新町でも、公聴事業として行っているが、PR不足で合併してから一回しか開催の要請がきていない。町民の生の声を聞いたりに直接活かしていくことは、大変重要であると思っている。町の総合計画、大山恵みの里づくり計画等、多くの皆さんに関わっていただいた。全国和牛能力共進会についても、多くの方々の意見を聞きながら、いろいろな町づくりの計画等立ててきている。また、広報だいせん7月号や、町のホームページを利用し、「町長の出前座談会」を広く町民に周知していく。

られ、大山町の知名度をあげている、大変有意義な大会である。しかし、宿泊や、食事は大山町内でして頂いたのだろうか。大会の形式や中味に工夫が見られただろうか。その取り組みに対して、民間の経営感覚を取り入れるということが、外部評価制度につながるのではないか。

実施した。確かに、具体的な事業の取り組みの中で、効果はどのくらいあるのか検証しながら取り組むべきだろうと思っている。外部評価の必要性は十分に認識しているが、まず内部でのプランの再検討を具体化させて行きたい。今後の大きな課題として、内部評価と同時に、外部評価もできるような体制を作って行きたいと考えている。



マラソンフェスタ

外部評価制度の導入を

まず内部での再検討

実施した。確かに、具体的な事業の取り組みの中で、効果はどのくらいあるのか検証しながら取り組むべきだろうと思っている。外部評価の必要性は十分に認識しているが、まず内部でのプランの再検討を具体化させて行きたい。今後の大きな課題として、内部評価と同時に、外部評価もできるような体制を作って行きたいと考えている。

実施した。確かに、具体的な事業の取り組みの中で、効果はどのくらいあるのか検証しながら取り組むべきだろうと思っている。外部評価の必要性は十分に認識しているが、まず内部でのプランの再検討を具体化させて行きたい。今後の大きな課題として、内部評価と同時に、外部評価もできるような体制を作って行きたいと考えている。